

平成 23 年の大阪経済

持ち直し基調にあったが、一進一退の動きを示した大阪経済

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、平成 23 年の年間の経済動向を『平成 23 年の大阪経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

平成 23 年の大阪経済は、年前半は、エコポイント制度やエコカー補助金等の政策効果の反動や東日本大震災の影響がみられた一方で、百貨店の増床効果や地上デジタル化放送への移行などもあり、家電や自動車などの耐久消費財は一進一退となった。このような背景から、生産は年初には強含みで推移したが、震災後は減少傾向が続いた。

年後半は、家電で落ち込み幅が拡大したが、前年の販売増加による反動減の影響が薄れた自動車の販売は大幅に増加し、住宅投資も持ち直しの傾向を示した。ただし、輸出は円相場の高騰から減少に転じ、生産も世界経済の変調やタイの洪水等の影響を受け、年末にかけて動きが鈍化した。

府内企業の業況は、年初に改善基調がみられたものの、その後は需要・供給の双方で動きが鈍化した。業種別には、製造業は年初に緩やかな改善傾向にあったが、震災後は弱含みで推移し、非製造業は製造業よりも低水準で、同様の傾向を示した。

第 1 章 持ち直し基調にあるも一進一退の大阪経済

第 2 章 平成 23 年の経済動向

第 1 節 需要はやや回復

1. 個人消費は減少傾向が緩やかに
2. 住宅投資は持ち直し傾向にある
3. 民間設備投資は持ち直し
4. 輸出は微増、輸入は大幅増加

第 2 節 産業活動は緩やかな持ち直しから足踏みへ

1. 生産活動は、自然災害等の影響により大きく変動
2. 雇用は改善傾向にある
3. 物価は低下
4. 企業倒産件数は 2 年連続の減少

第 3 章 平成 23 年の企業動向

第 1 節 年初まで回復傾向にあった業況は、震災発生後に悪化

1. 企業の業況判断は、足踏み状態で推移
2. 営業利益、資金繰りは持ち直し傾向が続いたが、回復力は弱い
3. 雇用過剰感は解消に向かう

第 2 節 中小企業の業況は緩やかに持ち直し

1. 出荷・売上高は春期に一服したが、年後半は緩やかに持ち直し
2. 受注・販売は緩やかに持ち直した業種が多い